



「星の王子さま」より

『おとなは、だれも、はじめは子どもだった。(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)』

「星の王子さま」の冒頭にこんな一文があります。この物語

は、作者のアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリが、むかし子どもだったひとりのおとな、親友のレオン・ヴェルトにささげた物語です。読んだことはなくても、この本のタイトルを知っている人はたくさんいると思います。この物語は、児童文学という位置づけですが、その内容から「生きること」「愛すること」についてとても考えさせられる作品です。その物語の中から、私が好きな文を少しだけ紹介します。

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐるから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった……。 <夏休み、ちょっと立ち止まって、考える時間も必要ですね>

～いちばん大切なこと～

『とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない』

王子が地球で出会ったキツネの言葉です。バラとのけんかが原因で、自分の星を飛び出した王子さまでした。でも、そのバラが王子さまにとってかけがえのないバラだったことに気づくのです。目にはみえなくてもそこに「絆」や「愛情」があり、王子さまがバラと過ごした「時間」があったのです。たとえば、家族や友達、恋人など、その人たちを大切にする想いや愛情は、目には見えない。けれどもそこには確かに「絆」や「愛」があり、共有した「時間」がある。目に見えないけれど、それがとても大切なことだと、教えてくれる一言です。

～何をさがしていたのかを思い出そう～

『子どもたちだけが、なにをさがしているのか、わかってるんだね』

急いでいる電車を送り出す鉄道員に会ったときの王子さまのセリフです。王子さまが、みんなそんなに急いで「なにをさがしてるのか」と鉄道員に聞くと、鉄道員も運転士も誰も知りませんでした。子どもたちだけが、窓ガラスに顔をおしつけているのです。おとなになると、「何がしたいのか」「どこへ行きたいのか」明確な答えを持っている人が少なくなるのでしょうか。

子どものころはたくさん夢があって、何がしたいか、何を求めているのか、どこへ行きたいのか、ちゃんとわかっていたような気がします。おとなになるにつれて現実が見えてきてしまい、本当の気持ちを見失いがちです。一度走っている足を止めて、何がしたかったのか、どこへ行きたかったのか、子どもの頃を思い出して考えてみるのもいいのかもしれません。



- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 日 (月)・2 日 (火) | 1 年ファイナンスパーク学習 (生き方探究館) |
| 4 日 (木) | 育成合同球技大会 (島津アリーナ) |
| 11 日 (木) | 保護者懇談会 <～18 日 (木)> |
| 19 日 (金) | 1 学期終業式 |
| 25 日 (木)・26 日 (金) | サマースクール (学習会) |

学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」
～発信力・行動力を身につけ、
自己肯定感を得られる生徒の育成～



「凡事徹底」 桂川中学校 あたりまえ10か条

- 1 「あいさつは、先にする」ことが あたりまえ
- 2 「時間（期限）や約束は、守る」ことが あたりまえ
- 3 「授業は、その1時間を大切にする」ことが あたりまえ
- 4 「清掃活動、みんなでやる」ことが あたりまえ
- 5 「言葉遣い、きちんとする」ことが あたりまえ
- 6 「自分も人も、大切にする」ことが あたりまえ
- 7 「人の話は、目と耳と心で聴く」ことが あたりまえ
- 8 「決まりごと、守って生活する」ことが あたりまえ
- 9 「身だしなみ、ととのえる」ことが あたりまえ
- 10 「いじめ・暴力、しない、許さない」ことが あたりまえ



4月、入学してきた1年生。それぞれ進級した2・3年生。新しい気持ちでスタートをきったと思いますが、3ヶ月を振り返ってどうですか？登校時間、朝読書、授業、部活動、あいさつ・・・
自分のやるべきことはできていますか？1学期の締めくくりの7月、自分自身の学習や生活の中での自分の「凡事」が「徹底」できたかどうか振り返ってみてください。「凡事徹底」とは「当たり前前のことを当たり前前にやる」という意味ではありません。「当たり前前のことを、誰にも負けないくらい一生懸命やり切る」という意味です。日々の勉強も部活動も、友だちや先生、家族との触れ合いも、すべて「自分の魂を磨く（自分を成長させる）」ためにあります。

熊本県の高校サッカーの強豪校である大津高校を長く指導された平岡和徳先生もこの「凡事徹底」大切にしてくれました。九州の小さな町の無名の公立高校が全国の強豪校となり、何人ものJリーガーや日本代表選手が育っています。

【大津高校サッカー部の目指すところ】

1. 諦めない（あきらめない）才能を育てるのが、スポーツの最大の財産である。
2. 技術には、人間性がストレートに現れる。
3. 強いチームは良いあいさつができる。
4. 感動する心と感謝の気持ちを常にもとう。
5. 苦しいときは前進している。

【大津高校サッカー部細則】

1. 大津高生としての誇りをもち、学業・サッカーに日々精進する。
2. 原則として学校・部活は休まない（やむを得ない場合は必ず連絡する）
3. 競技規則はもとより、学校生活・社会生活におけるルールを厳守する。
4. スポーツマンとしてふさわしい服装と髪型を常に心がけ、あいさつを励行し、礼儀正しく俊敏な行動をとる。
5. 感動の気持ちを常に忘れず、常に人間性の向上に努める。

＜大津高校サッカー部規則＞

- ・あいさつの徹底
- ・学校生活の充実
- ・礼儀
- ・ルールの厳守
- ・正しい努力の継続

目標は、サッカーが上手くなること、レギュラーになること、全国大会に出るということかもしれません。でも大津高校でサッカーをする目的は、自分を磨き、社会に貢献できる人間になることなのです。それは、わたしたちも同じ。